

重点目標 (めざす姿)	重点目標及び具体的方策	主担当	【評価指標】	【評価の根拠】 達成度判断基準	
1	組織的な学校運営	①(安心・安全な学校生活・危機管理) 児童が安心して明るく元気に学校生活を送れるよう、物心両面における安全管理と危機管理に努め、いじめ・不登校等の未然防止をはじめ、課題に対して組織的に迅速・適切に対応する。	教頭	学校全体として危機管理意識を高く持ち、いじめ・不登校等に対して日頃の「気づきと見取り」をはじめ、定期的な児童アンケートや面談等を通して早期発見に努めている。	【児童アンケート】 ・学校は楽しい。 【保護者アンケート】 ・お子さんは、楽しく学校へ通っている。 【教職員アンケート】 ・いじめや不登校等の課題に、組織として迅速・適切に対応している。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
		②(組織的な教育活動の推進) 学校運営の状況や課題及び学力の傾向や課題について、全職員が共有し、組織的・計画的に取り組む。	教務	主任層を中心にPDCAサイクルを機能させ、互いに連携した組織的な教育活動を行っている。	【教職員アンケート】 ・「学校経営ビジョン」具現化のための各自の役割を認識し、組織的・計画的に実践し、検証を経て改善している。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
		③(業務改善) 教職員が常に時間管理意識やワーク・ライフバランス意識を保持し、業務のスリム化・効率化を図る。	教頭	児童と向き合う時間の確保や多忙化改善に向け、業務の見直しや改善策が図られている。	【教職員実態調査】 ・時間外勤務時間が45h以内の割合。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
2	知(確かな学力の育成)	①(基礎基本の育成) 学習規律の徹底を図り、聞く・話すを中心とした「福岡小学びのスタイル」を確立させ、目標達成にこだわった授業を目指し、基礎的知識・技能の定着を図る。	教務	「福岡小学びのスタイル」が確立され、基礎・基本の定着が成果として表れている。	【単元末テスト】 ・国語・算数の単元末テスト(知識・技能)の平均点 A: 90点~ B: 80点~ C: 70点~ D: 70点未満
		②(学ぶ喜びと達成感のある授業づくり) 算数科を中心に、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る授業づくりの研究を推進することで、児童が主体的に学び、活用力の育成を図る。	研究	児童が、自分にあった学び方を選びながら学習を進めることができています。 児童が、協働的な学びの良さを感じている。	【児童アンケート】 ・自分が選んだ学び方で前向きに授業に参加している。 ・友達と意見を伝え合ったり、自分の考えをもう一度見直したりすることで、考えが深まっている。 【教職員アンケート】 ・児童の主体的・協働的な学びを支援するための工夫・改善をしている。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
		③(GIGAスクール構想の推進) GIGA校内研修推進リーダーを中心に、研修を行うことで、全教職員が「児童が一人一台端末を効果的に活用して学ぶ授業」の実践力をつける。	GIGA推進リーダー 校内研修	GIGA校内研修が計画的に行われ、全教職員が1日2時間以上の使用を目標にし、「児童が一人一台端末を活用して学ぶ授業での効果的活用」の実践を交流している。	【児童アンケート】 ・授業で、ICT機器を使って学ぶよさを感じている。 【教職員アンケート】 ・研修や実践交流をいかして、ICTを効果的に活用した授業を行っている。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
3	徳(豊かな心の育成)	①(積極的な生徒指導) 共感的人間関係を育む言葉を豊かにする取組をし、あたたかな人間関係でつながる学級経営を行っている。	生徒指導	教育活動全体で、「生徒指導の4機能」を意識した教育活動を行っている。	【教職員アンケート】 ・「生徒指導の4機能を生かす言葉かけ」を授業や行事の中で意図的に使うようしている。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
		②(主体性・協働性の育成) 児童が主体的に取り組む、お互いを大切にして協働性を高める実践を工夫することで、「より良い学級・学校を自分たちでつくる」という意識を高める。	児童生徒指導	児童一人一人が「よりよい授業・学級・学校を自分たちでつくる」意識を持ち、児童自らが立てた目標を達成することができる。	【児童アンケート】 ・あいさつができた。 ・友達と協力して活動ができた。 ・決まりを守って行動することができた。 A: +評価90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満
		③(自己有用感の育成) 授業や様々な行事・活動において、児童に成長しようとする意欲を持たせ、自己評価・相互評価を通し自己有用感を高める。	生徒指導	自分に自信を持ち、前向きな態度で物事に取り組むと同時に他者に対して思いやりの気持ちをもって接することができる。	【児童アンケート】 ・自分には良いところがある。 ・自分は学校・学級や友達の役に立っていると感じることがある。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
4	体(健全な身体育成)	①(体力づくり) 児童が主体的に取り組む体力づくりや体育的行事の工夫・実施に努める。	保健主事	児童が、個人や集団として立てた目標に向かって意欲的に運動に取り組んでいる。	【児童アンケート】 ・重点種目において各学年の目標を達成することができた。 ・体育が好きだ。 【教職員アンケート】 ・児童が意欲をもって取り組めるよう授業を工夫している。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
		②(命を守る取り組みの推進) 学校生活において安全対策・安全教育を徹底し、事故のない安全・安心の教育活動を確保する。	保健体育部	児童が、安全な生活について保健指導や避難訓練等で学んだことを、日常生活で実践している。	【児童アンケート】 ・安全な生活を送るための正しい行動を自分で考えてきている。 【教職員アンケート】 ・安全な生活の推進を養護教諭や保健委員会等と連携して取り組んでいる。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
		③(健康教育・生活リズムの確立) 自らの健康や生活に関心を持ち、進んでよりよい生活習慣・食習慣づくりを推進する。また、地域・保護者と連携して、家庭学習や生活のふりかえりシート等、生活リズムの確立に向けて取り組む。	保健体育部	「生活見直し週間(各学期)」の取組を通して、児童自らメディアの使用をコントロールし、規則正しい生活を送っている。	【児童アンケート】 ・各家庭で決めたメディアルールの達成率 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
5	家庭・地域との連携	①(ふるさと愛の醸成) 様々な体験を通して、能美市や根上の自然や歴史・産業・文化に触れ、ふるさとを愛する心と態度を養う。	教頭	生活や社会、総合的な学習、道徳を中心にゲストティーチャーを招聘したり体験活動したりして、ふるさとのことを学ぼうとしている。	【児童アンケート】 ・地域のことを調べたり学んだりして、能美市や根上のことがわかったり良さを発見したりできた。 【教員アンケート】 ・学校運営協議会と協力して、地域をいかに授業を行っている。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満
		②(コミュニティスクールの推進) 学校と地域・家庭が協働し、子どもを地域で支え育むため、学校運営協議会を充実させ、「開かれた学校」づくりを進める。	教頭	地域のものや人材の有効活用をはじめ、校内外の課題を効果的に協議・改善するため「学校運営協議会」の運営の充実にも努めている。	【保護者アンケート】 ・学校・PTA・地域の活動や行事に参加している。 【学校運営協議会委員の意見】 ・学校と地域が目標を共有して、連携・協働して活動している。 A: +評価90%以上 B: 80%~ C: 70%~ D: 70%未満